

宇部興産株式会社 会社説明会



宇部興産株式会社
財務・IR部

- I** 宇部興産の概要
- II** 2020年度業績予想
- III** 事業ポートフォリオ
- IV** 主要事業の概況
- V** 地球環境問題への取り組み
- VI** 株主還元の考え方

I

宇部興産の概要

- ◆社名 宇部興産株式会社
- ◆創業 1897（明治30）年6月
- ◆設立 1942（昭和17）年3月
- ◆代表者 泉原 雅人
- ◆本社 (東京) 東京都港区芝浦
(宇部) 山口県宇部市
- ◆資本金 584億円 (2020年3月期)
- ◆連結子会社数 69社 (2020年3月期)
- ◆連結従業員数 10,890人 (2020年3月期)
- ◆上場取引所 東京・福岡 (1949年上場)
- ◆単元株式数 100株
- ◆証券コード 4208
- ◆インデックス 日経平均株価、
JPX日経400などに採用



UBEグループ° 120年の歴史



創業理念：

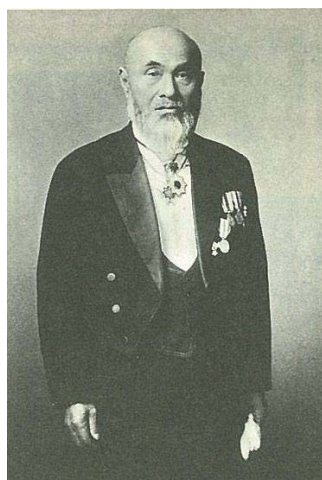
「共存同栄」「有限の鉱業から無限の工業へ」

経営理念：

技術の探求と革新の心で、未来につながる価値を創出し、社会の発展に貢献します

経営方針

- | | |
|------------|-----------------------------|
| 1. 「倫理」 | 高い倫理観を保ち、法令および社会規範を遵守します |
| 2. 「安全と安心」 | 地球環境保全に努め、安全・安心なものづくりを行います |
| 3. 「品質」 | お客様と社会の信頼に応える品質をお届けします |
| 4. 「人」 | 個性と多様性を尊重し、健康で働きやすい職場をつくります |



初代社長 渡辺 祐策

UBEグループは1897年、発祥の地、宇部で始めた石炭採掘事業以来、時代と産業構造の変化に対応し、常に自己変革を行ってきました。

その中で一貫して変わらなかった価値—それが「技術」と「革新」です。

独創的な「技術力」と革新的な「モノづくり力」、そして時代を先取りし、変化を怖れないチャレンジ精神は、現在もUBEグループ共通の価値観として、脈々と受け継がれています。

事業概要（事業別売上高シェアと主要製品）

UBE

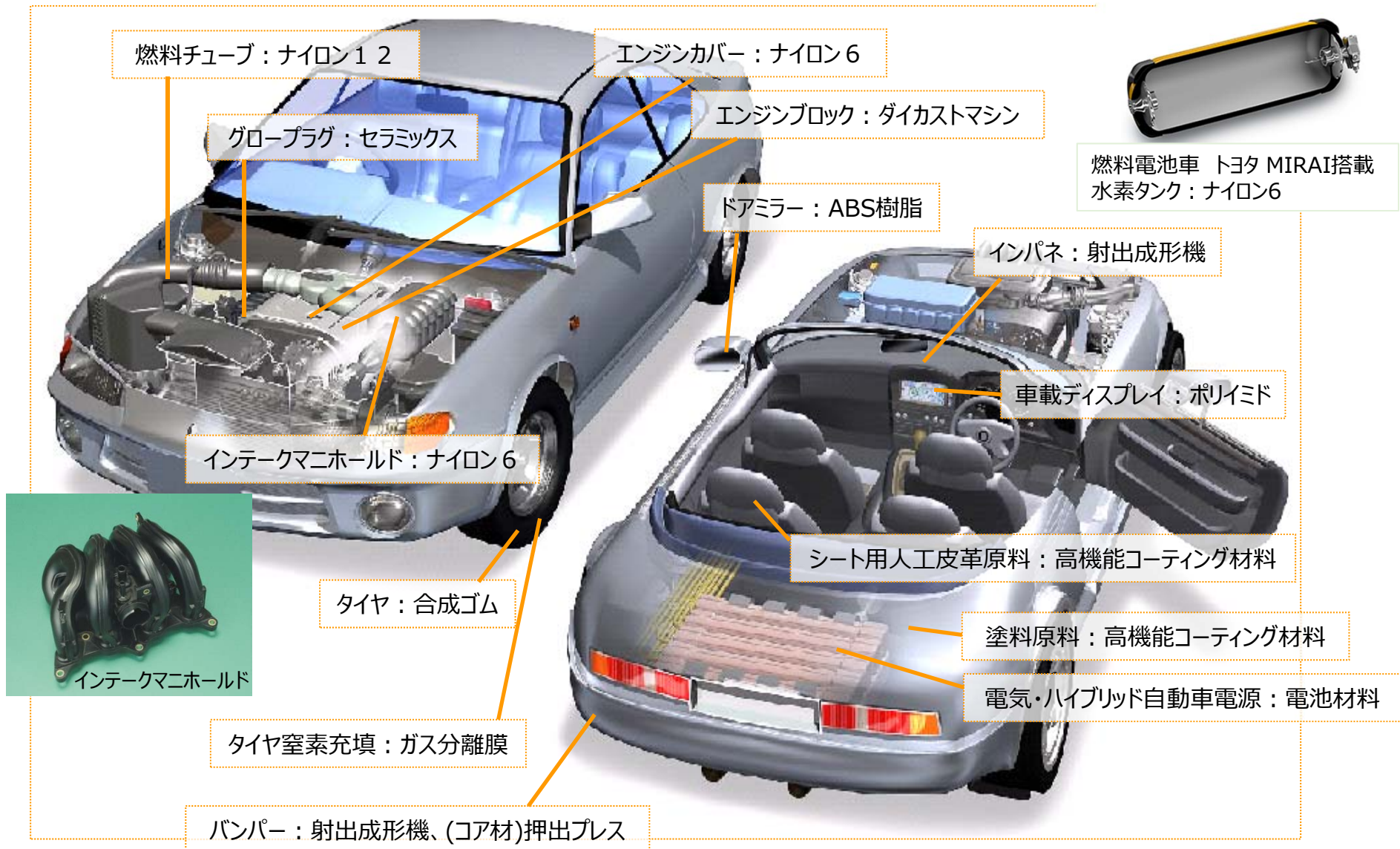
➤ 2019年度 連結売上高：6,678億円

<p>化学 2,860億円 (売上高シェア43%)</p>		<ul style="list-style-type: none">• 合成ゴム• ナイロン樹脂／原料• 工業薬品• ファインケミカル• ポリイミド• 機能性材料• 電池材料• 医薬
<p>建設資材 3,030億円 (売上高シェア45%)</p>		<ul style="list-style-type: none">• セメント／生コン• 各種建材• 耐震補強• 石灰石関連製品• 石炭輸入販売／貯蔵• 自家発電／卸電力発電
<p>機械 907億円 (売上高シェア14%)</p>		<ul style="list-style-type: none">• 成形機• 産業機械• 橋梁

※：事業間の内部売上等があるため、シェアを合計しても100%にはなりません

身近なUBE製品① -自動車-

UBE



身近なUBE製品② (航空、エネルギー・環境、一般産業、インフラ)

UBE

風力発電軸受け：セラミックス

タンカー防爆：ガス分離膜

飛行機防爆：ガス分離膜

燃料：石炭

製鉄：石灰石関連製品

海底ケーブル被覆：ポリエチレン

地盤改良用固化材

橋梁

光通信網：光ケーブル資材

魚網：ナイロン6

大規模施設、住宅：建材

ガスパイプ：ナイロン12

廃棄物：セメント原料化

肥料：硫安

ビル、道路：セメント、生コン

大型ベルトコンベア

303

1332

身近なUBE製品③ -生活関連-



入浴剤

防水材

サッシ：押出プレス

ゴルフボール、靴底：合成ゴム

珪藻土バスマット

保存容器：ポリエチレン

便座、洗面台：ABS樹脂

食品パッケージフィルム：ナイロン6

食品ラップフィルム・パック

電動工具、電動自転車：電池材料

壁材

スポーツ靴：特殊ナイロン

化粧香料：ヘリオフレッシュ®

床材：セルフレベルング材

薬：医薬原体・中間体

合皮ソファ：高機能コーティング材料

カーペット：カプロラクタム

タリオン®

カルブロック®

エフィエント®

エイベリス®

全国の事業所



宇部地区主力工場地帯



伊佐セメント工場



伊佐セメント工場

- 宇部本社
- 基盤技術研究所
- 医薬研究所
- 宇部ケミカル工場
- 宇部藤曲工場
- 宇部セメント工場
- 技術開発研究所
- 沖の山コールセンター

苅田セメント工場

宇部興産機械(株)
本社・工場

堺工場
大阪研究開発センター

大阪支店

東京本社

名古屋支店

宇部興産機械(株) 名古屋事業所

千葉石油化学工場
先端技術研究所 他

堺工場

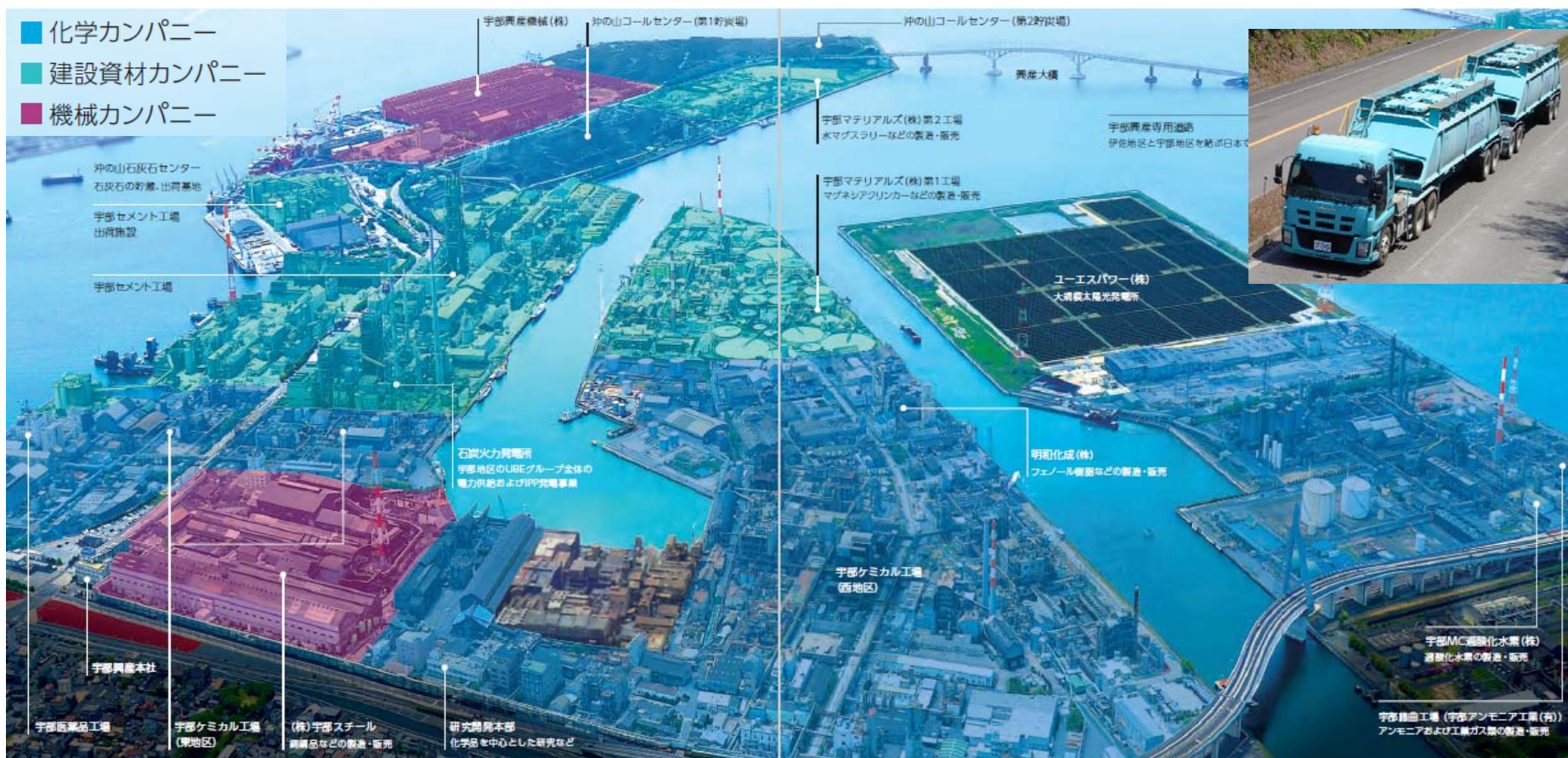


宇部地区工場群のつながり

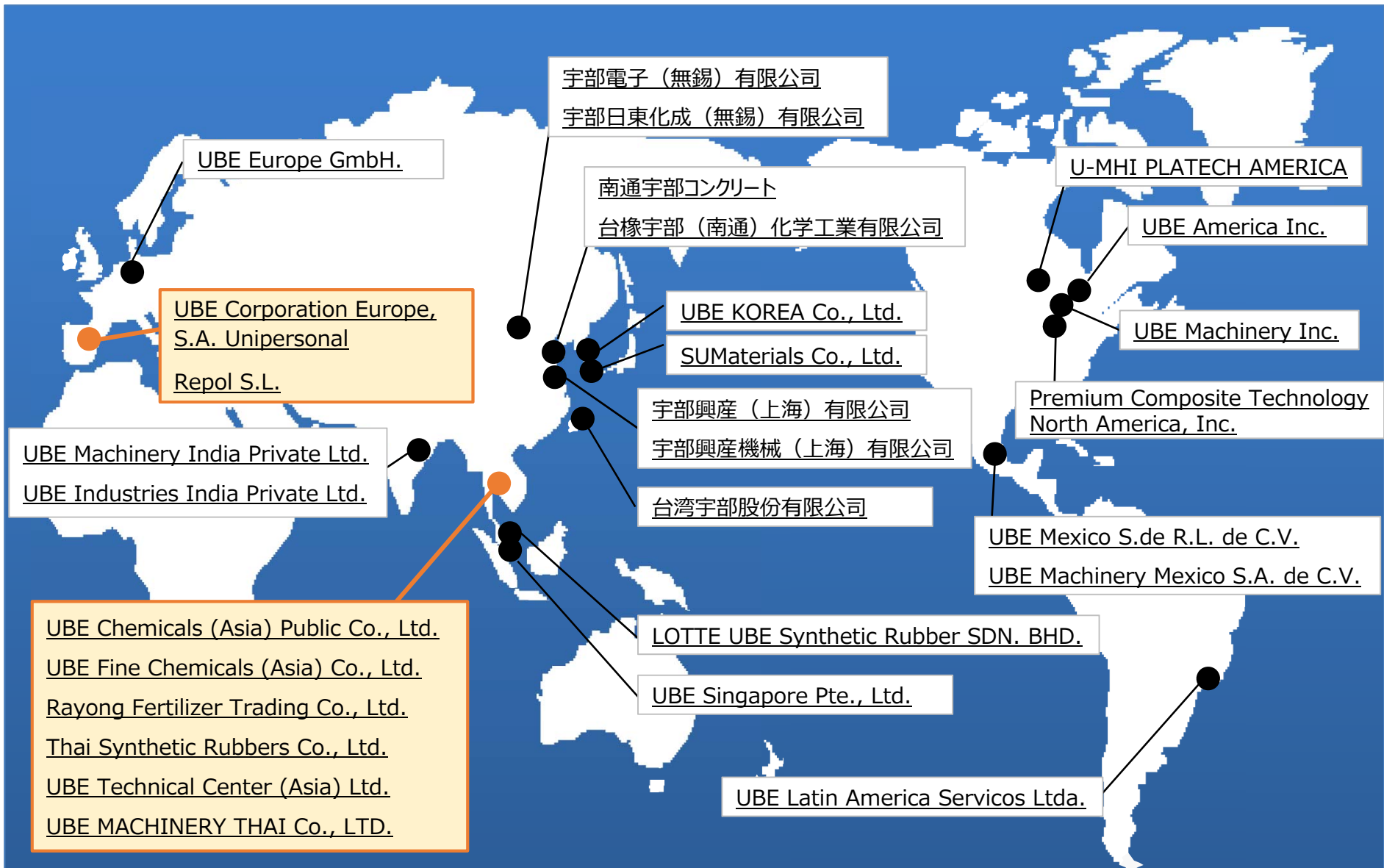
宇部地区において電力・港湾などのインフラを化学、建設資材、機械の各事業が共同利用しており、優れたコスト競争力を有しています。また、各カンパニーが自律的に事業を運営し、様々な変化に個々の事業が迅速に対応しており、広く世界で持続的な価値創出を可能とするビジネスモデルを構築しています。

- インフラの共有による生産性向上
- 発電所からのスチーム、セメント工場からの排熱を有効活用
- 石灰石、水資源、港湾などに恵まれた土地

宇部地区敷地面積は約900万㎡
東京ドーム約192個分



全世界の拠点



II

2020年度業績予想



新型コロナウイルスの影響と2020年度業績予想



- 6～7月において、特に自動車関連分野を中心として影響が最大化。
- 9月以降の世界経済の回復とともに、下期にかけて緩やかに回復していくと見込む。
- 損益は悪化するが、19年度下期と20年度下期との比較では改善の見込み。

(単位：億円)

項目	'19年度			'20年度			差異		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,350	3,328	6,678	2,800	3,120	5,920	△550	△208	△758
営業利益	167	172	340	34	181	215	△133	9	△125
経常利益	166	190	357	15	160	175	△151	△30	△182
親会社株主に 帰属する 当期純利益	107	121	229	2	128	130	△105	7	△99

中期経営計画 カンパニー別 数値計画



(単位：億円)

カンパニー	売上高			営業利益		
	'19年度 (実績)	'20年度 (予想)		'19年度 (実績)	'20年度 (予想)	
			2Q			2Q
化学	2,860	2,430	1,123	145	55	△25
建設資材	3,030	2,790	1,391	145	130	56
機械	907	780	349	49	30	2
その他	45	30	14	5	5	1
調整額※	△165	△110	△78	△6	△5	△0
計	6,678	5,920	2,800	340	215	34

※カンパニー間消去を含む

Ⅲ

事業ポートフォリオ



<p>育成事業</p>	<p>チラノ繊維、LTO（チタン酸リチウム）</p>
<p>積極拡大事業</p>	<p>ナイロン、ファインケミカル、高機能コーティング、 合成ゴム、ポリイミド、分離膜、セパレータ</p>
	<p>マグネシア・カルシア、バイオマス燃料、資源リサイクル</p>
<p>基盤事業</p>	<p>カプロラクタム、工業薬品、医薬</p>
	<p>セメント・生コン、エネルギー</p>
	<p>成形機、産機、製鋼</p>

志向する事業ドメイン



- 4つの事業ドメインで既存事業と周辺事業領域の拡大及び新規事業の育成に取り組み、継続的に新たな価値を市場と顧客に提供する

環境・エネルギー (省資源、省エネ、新規材料)

電池材料

エネルギー

資源リサイクル

LTO

機能性
無機材料

バイオマス燃料

モビリティ (自動車、鉄道、航空分野)

ナイロン

高機能
コーティング

合成ゴム

分離膜

セラミックス

電池材料

ファインマテリアル

成形機

チラノ繊維

LTO

建築・インフラ (インフラ、住環境、スマートシティ)

高機能
コーティング

分離膜

セラミックス

セメント・生コン

マグネシア・
カルシア

産機
製鋼

中性固化材

重金属
不溶化材

次世代リニュー
アルシステム

ヘルスケア (食品、医薬、生活高度化)

医薬

ナイロン

工業薬品

ファインケミカル

ヘルスケア関連
物質産生システム

IV

主要事業の概況



■ナイロン樹脂 — 食品包装フィルムや自動車部材などに用いられる、ガスバリア性と耐熱性に優れたプラスチック。

事業環境

- 新興国の生活水準の向上により、食品包装等の用途が成長
- 自動車の電動化や軽量化が進展、ニーズはより付加価値の高い樹脂へ変化

戦略

- グローバルでの重合能力最適化
- 製品・技術の高付加価値化
- 環境問題への対応

将来像

グローバルで付加価値品比率を高め、収益力をアップ



ナイロン樹脂の用途例：食品包装フィルム、自動車部材

■カプロラクタム — ナイロン繊維・樹脂の原料

事業環境

- 景気後退等の影響を受けていたが、足元の市況は改善傾向

戦略

- コストダウンと収益改善
- 複製肥料の付加価値向上

将来像

ナイロン原料として安定した収益構造を確立

■ 耐摩耗性に優れた合成ゴム。UBEグループ品は主に自動車タイヤ向け

事業環境

- タイヤ需要及び合成ゴム需要は年平均3%程度で安定成長

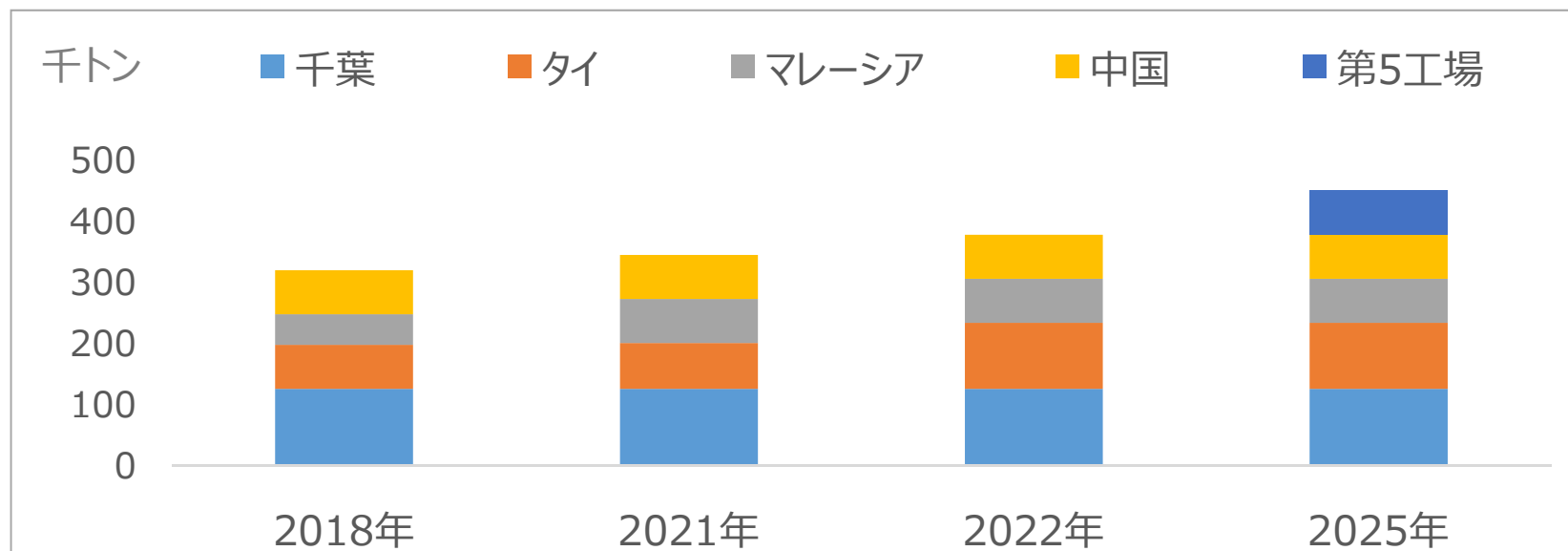
戦略

- 特殊グレード、新世代BRの開発
- 製造拠点の連携を強め、供給責任を全う

将来像

顧客満足度世界一の合成ゴム事業

—生産能力の拡大計画—



■ 電子機器の回路基板などに用いられる超耐熱性プラスチック

事業環境

- テレビなどの高精細化が進展し、回路基板フィルム需要が堅調
- 有機ELディスプレイなどの高級スマートフォン市場が中国で本格化

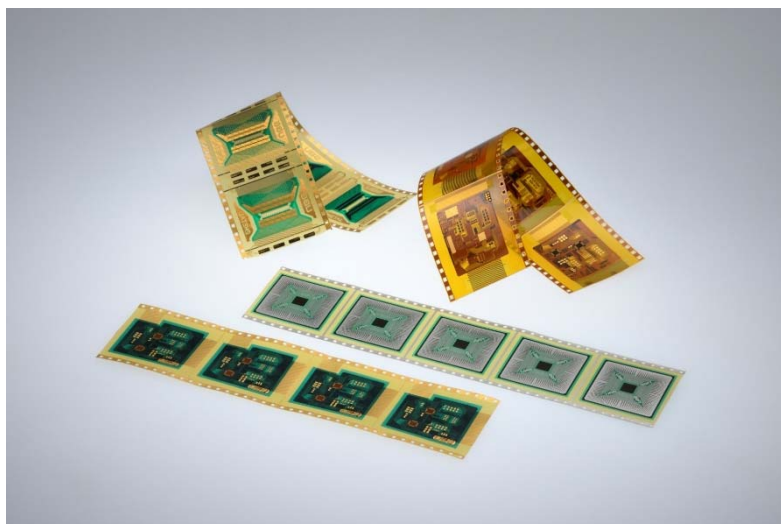
戦略

- スマートフォン向けの新製品を拡販
- 生産能力増強とコストダウンの推進

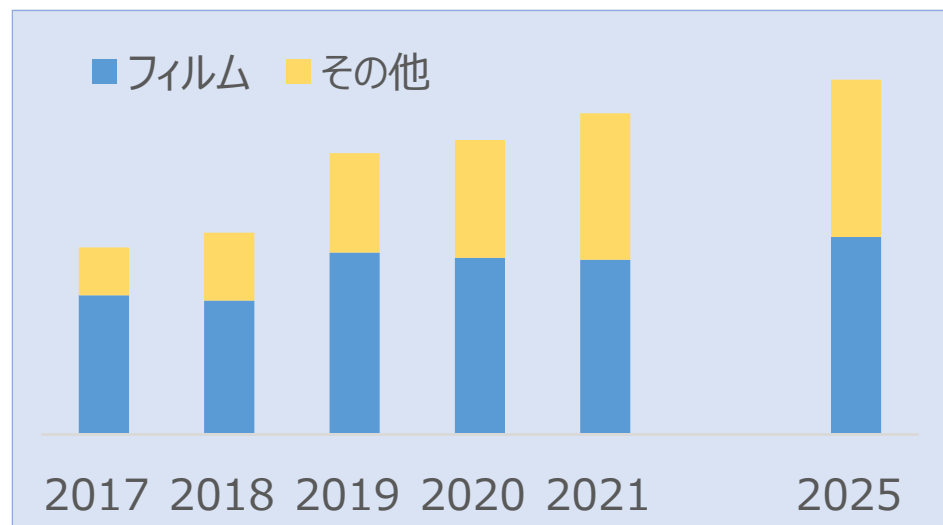
将来像

**新製品・新規用途での
拡販を進め、更に成長**

—ポリイミドの回路用途例—



—売上高推移—



リチウムイオン電池材料（セパレータ）

UBE

■ リチウムイオン電池の正極と負極を隔てる絶縁膜。安全性や出力特性に強み

事業
環境

- 電気自動車やハイブリッド自動車に使われるリチウムイオン電池向けで需要が伸長

戦略

- 将来の有力案件を積極的に獲得
- 要求性能を満たす高品質化の推進

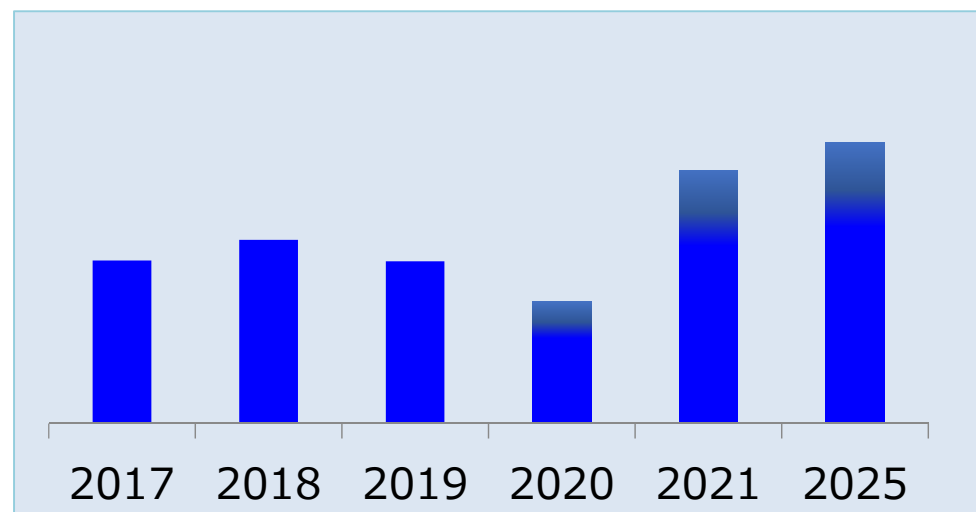
将来像

UBE品の特性を生かした高付加価値品での事業拡大

—セパレータ—



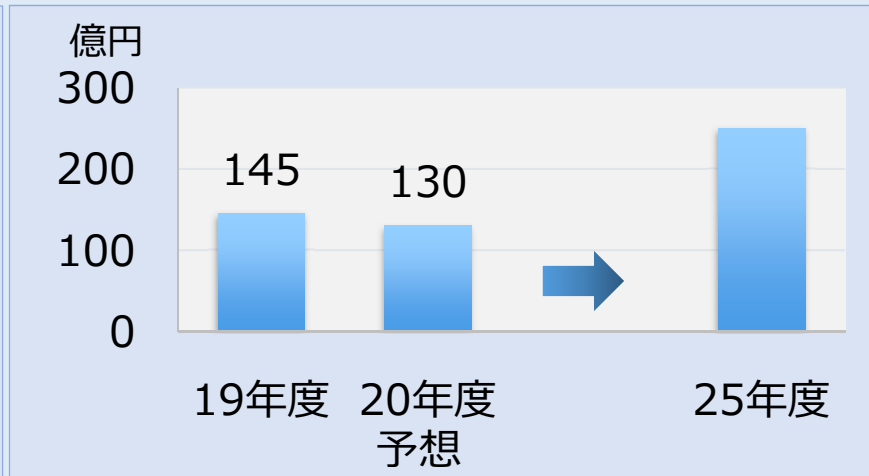
—売上高推移—



—セメント国内需要—



—建設資材カンパニー営業利益—



「社会インフラにおいて価値あるモノを提供し続ける」

1. 事業の強化と拡大

- セメント・生コン事業 : 省エネ・省コスト化、廃棄物利用拡大
- バイオマス、リサイクル事業 : 成長を加速

2. グループシナジーの追求

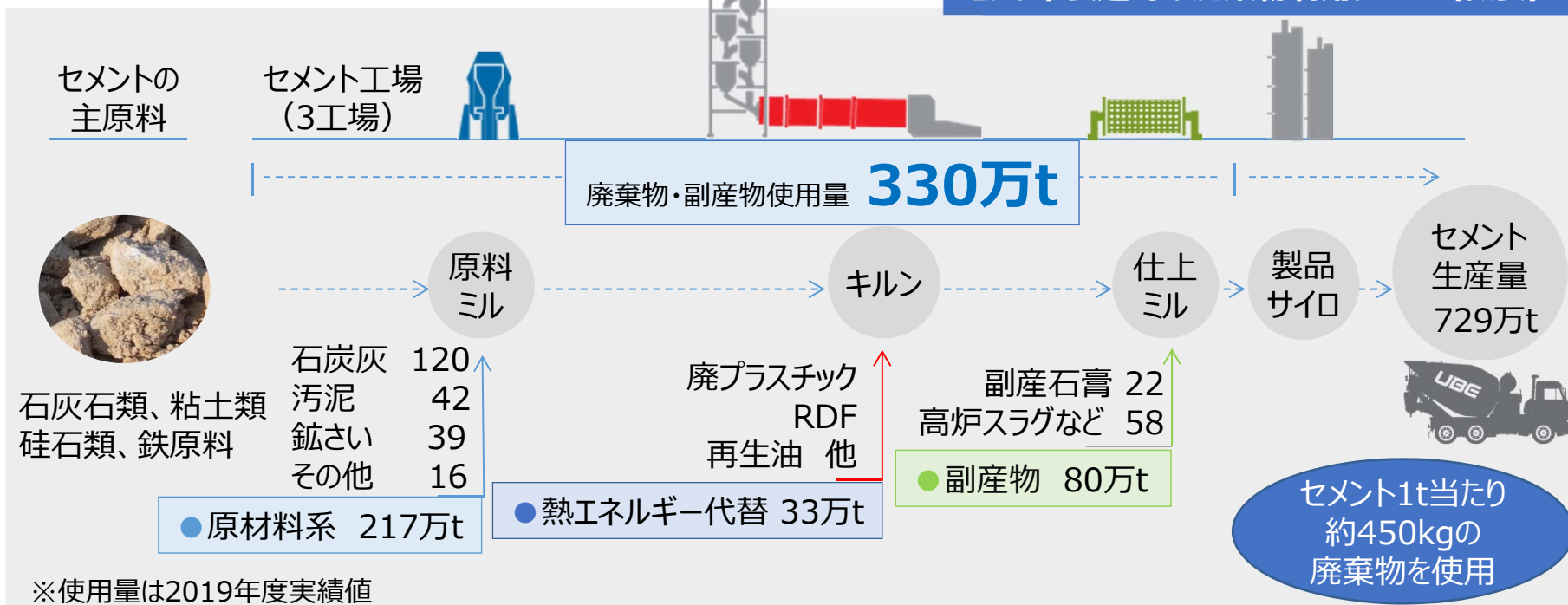
- 数十社あるグループ会社との連携を強化



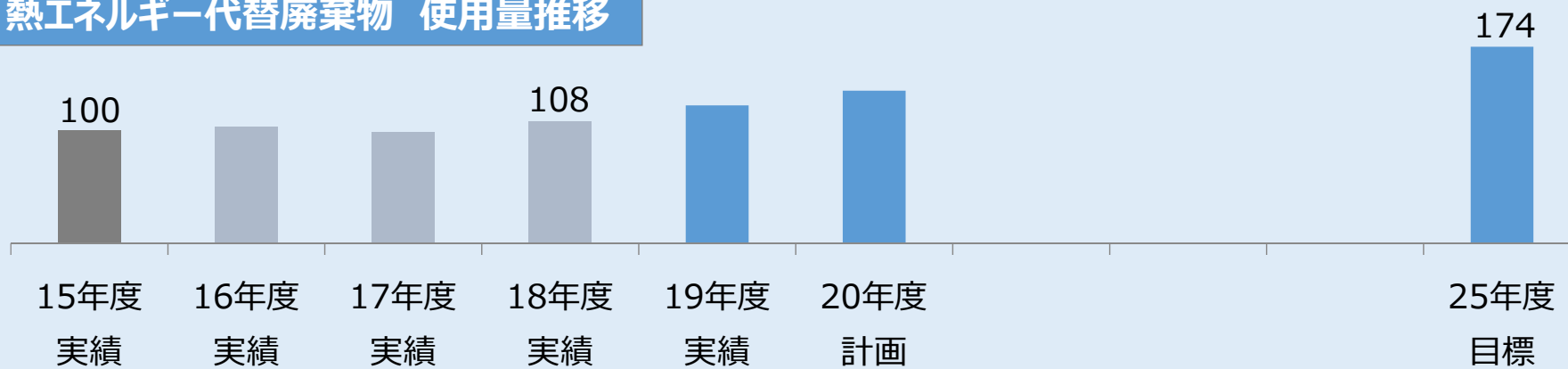
バイオマス燃料

■ 廃棄物処理

セメント製造時の廃棄物利用フロー（概要）



熱エネルギー代替廃棄物 使用量推移



建設資材 –三菱マテリアル(株)との事業統合– UBE

◆目的：建設資材事業の更なる発展と競争力の維持・強化

→国内セメント事業で創出されるキャッシュフローを国内外で成長が期待できる事業に集中的に投下し、社会インフラの整備および循環型社会の発展に貢献する企業として持続的な成長を図る

◆統合時期：2022年4月（予定）

◆統合範囲：セメント・生コン事業、石灰石資源事業、エネルギー・環境事業、
建材事業その他の関連事業 を予定

◆統合スタイル：UBE50%、三菱マテ社50%の新会社を設立し対象事業を承継
→新会社はUBE・三菱マテ社の持分法適用会社となる

セメント内需は
中長期的に減少

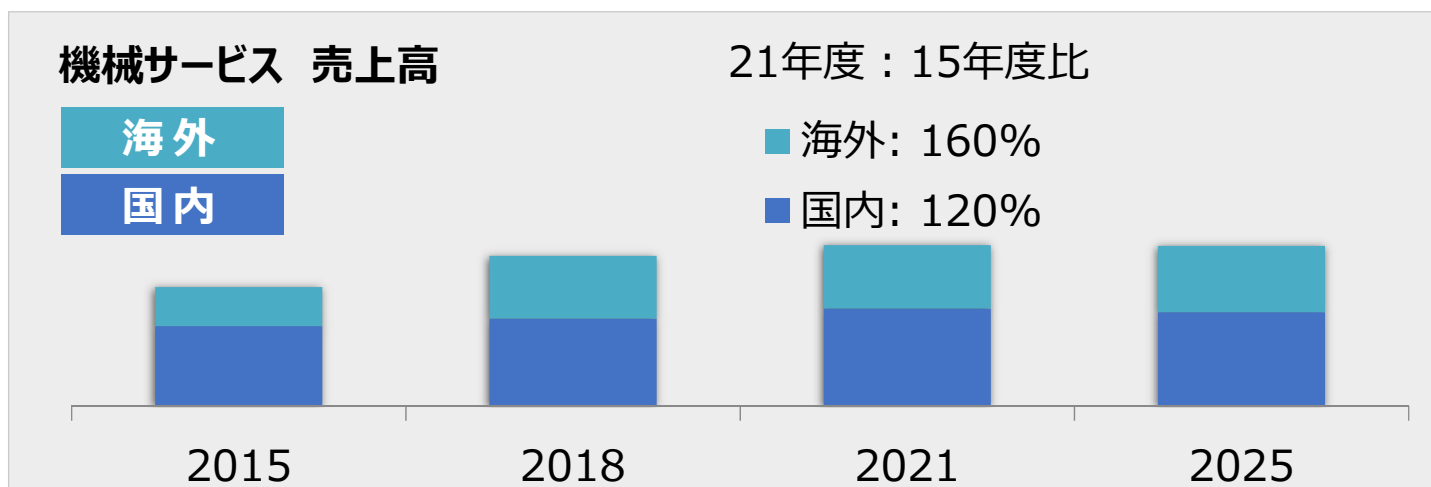
製造部門を含む
統合で基盤強化

成長分野を育成し
持続的に成長

■「ブランド力のある製品とサービスで顧客に貢献」

- 市場ニーズを先取りした製品開発と生産体制の最適化を推進
 - 成形機：自動車軽量化・EV化ニーズに対応した製品開発と市場開拓
 - 産機：環境貢献・資源リサイクル新市場への参入
 - 製鋼：最適生産体制の構築と産業廃棄物リサイクル事業の拡大

- 機械サービス事業の拡大
 - 海外サービス拠点の更なるサービス・サポート力の強化
 - 海外や他社製品のサービスの強化による収益拡大



V

地球環境問題への取り組み



■ UBEグループ環境ビジョン2050

- UBEグループは、豊かな地球環境を維持していくため、自然と調和した企業活動の推進に取り組みます
- 2050年までに温室効果ガス排出量の80%削減を目指すと共に、当社製品・技術によりサプライチェーン全体の温室効果ガスを削減し、脱炭素社会の実現に貢献していきます

■ 新たなUBEグループ目標

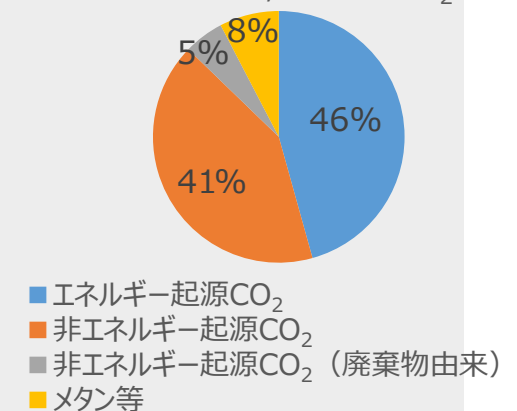
- **2030年度までに2013年度比 温室効果ガス排出量17%削減**

→更なる上積み実現のため、以下の取り組みを推進

- ① 一層の省エネ推進によるエネルギー原単位改善の継続・強化
- ② 廃棄物のエネルギー化促進と再生可能エネルギーの利用拡大
- ③ 化石資源に依存する事業構造の再構築を視野に入れた施策の検討
- ④ CO₂回収・利活用技術の開発、ビジネスの創出に注力

- **2030年度までに環境貢献型製品・技術の売上高比50%以上を目指す**

UBEグループ温室効果ガス排出量
2018年度実績 1,200万t-CO₂e



環境貢献型製品・技術による温室効果ガス削減貢献推定量 (2018年度)

年間約600万t-CO₂e

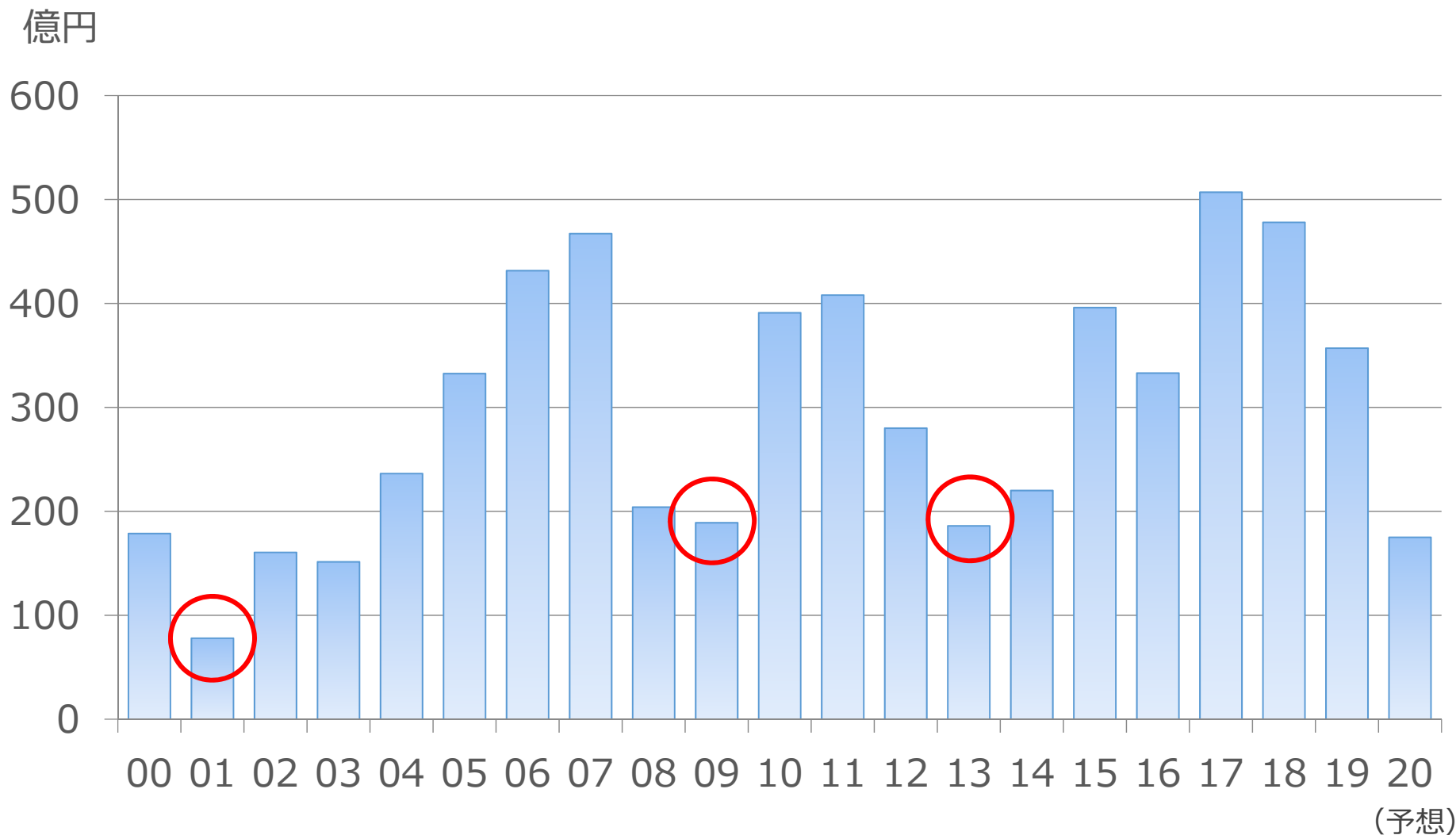
**UBEは2020年4月「気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)」の
提言に賛同を表明しました**

The Roman numeral 'VI' is displayed in white, bold, sans-serif font inside a dark blue square box. This box is positioned on the left side of the slide, above a horizontal blue line that spans the width of the page.

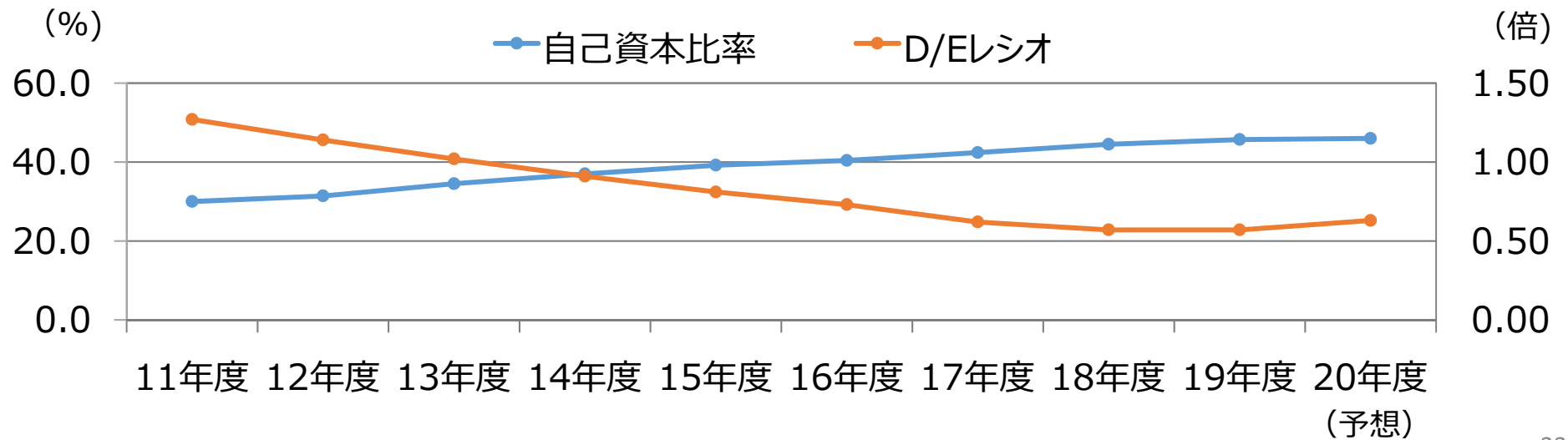
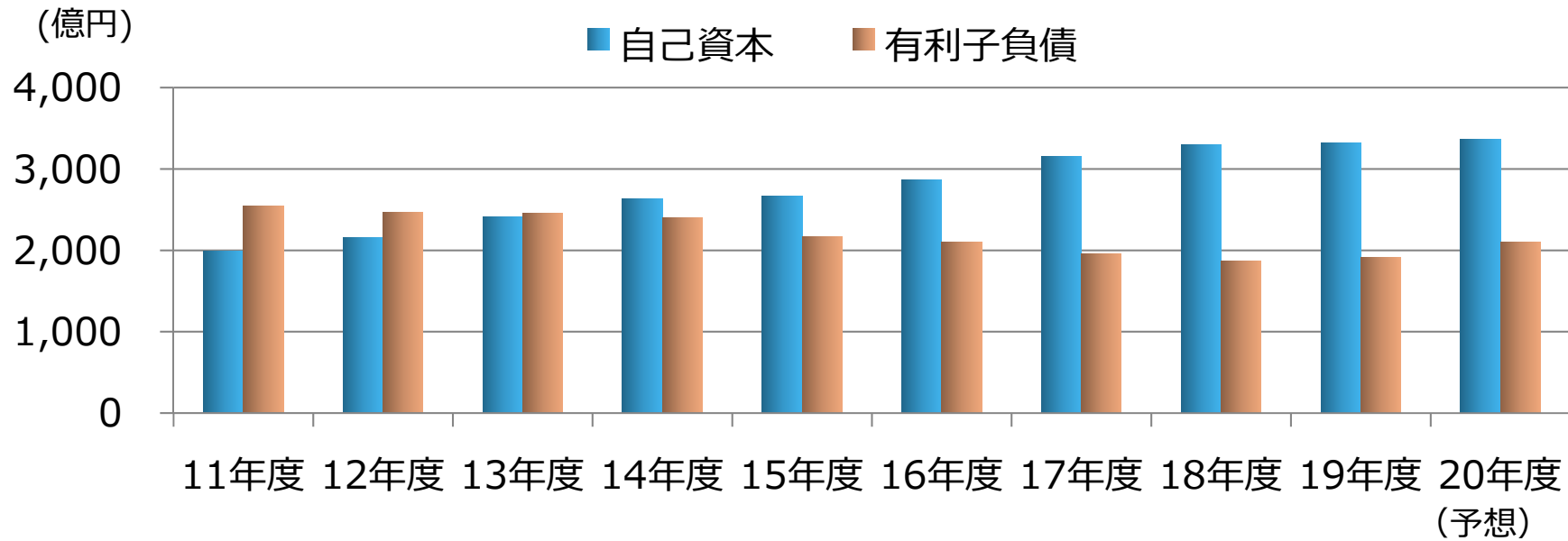
株主還元の考え方



■ 景気後退局面での連結経常利益の谷は着実に切り上がっている

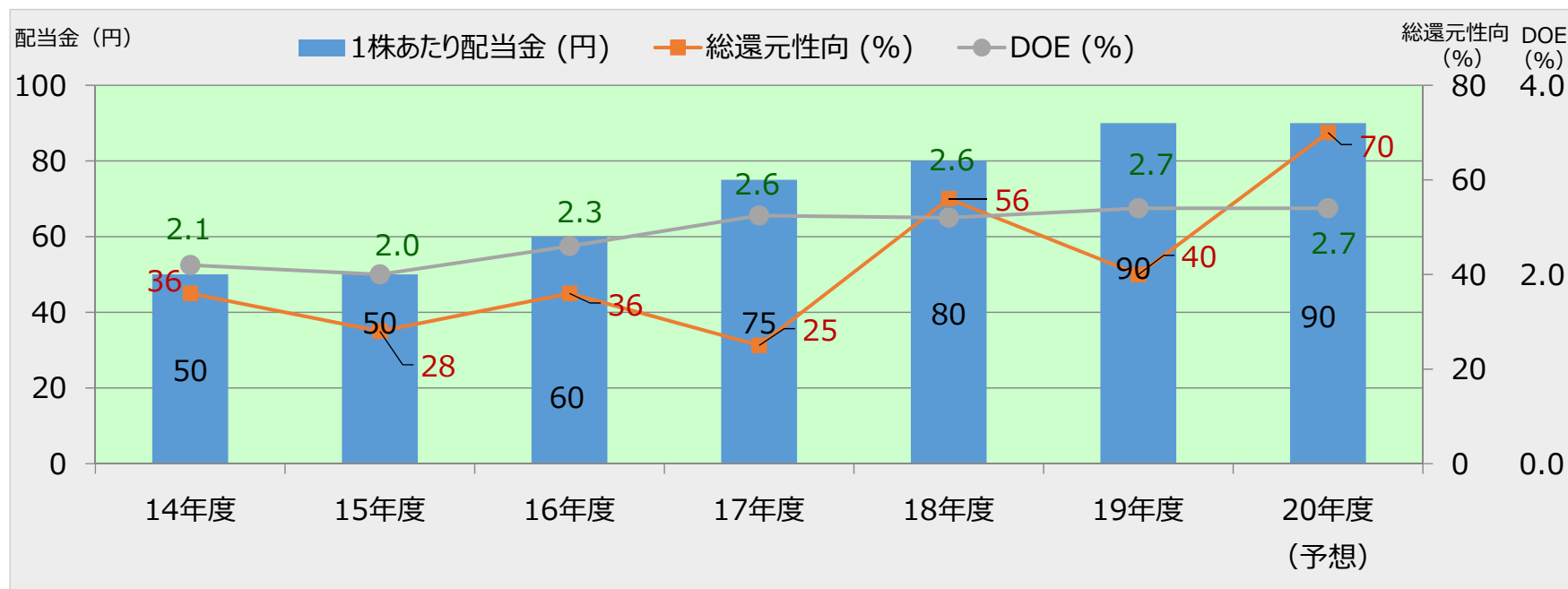


財務体質の推移



DOE（株主資本配当率） 2.5%以上
連結総還元性向 30%以上（3か年平均）

- ◆株主還元方針（DOE（株主資本配当率）2.5%以上）に基づき、20年度の1株当たり配当金（予想）は90円
- ◆株主資本及びキャッシュフローの状況を踏まえて、成長投資と株主還元を両立



(注) 当社は、2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。2016年度以前の1株当たり配当金は、株式併合後の基準で換算したものです。

UBE

本資料における将来の見通しに関する記載は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績はさまざまな要因の変化によって見通しと大きく異なる場合があります。

そのような要因としては、主要市場の経済状況、製品の需給、原燃料価格、金利、為替相場などがあります。ただし、業績に影響を及ぼす要因はこれらに限定されるものではありません。

本資料の著作権は当社に帰属します。本資料のいかなる部分も書面による当社の事前の承諾なく複製または転用などを行うことはできません。